

スポーツイベント開催時のセルフチェックリスト（主催者向け）①

全般的な事項

- 感染防止のため、主催者が実施すべき事項や、参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所(イベントの受付場所等)に掲示する。
- 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する。
- 障がい者や高齢者など利用者の特性にも配慮する。
- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた書面について、保存期間(少なくとも1月以上)を定めて保存する。
- イベント後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、施設の立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討する。

スポーツイベント参加募集時の対応

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求める(イベント当日に書面で確認を行う)
 - 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある)
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクを持参していただく(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する)。
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保する(障がい者の誘導や介助を行う場合を除く)。
- イベント中に大きな声で会話、応援等をしない。
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う。
- イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する。

当日の参加受付時の対応

- 受付窓口には、手指消毒剤を設置する。
- 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛ける(状況によっては、発熱を体温計などで特定し、入場を制限することも考える)。
- 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽する。
- 参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行う。
- 受付を行うスタッフには、マスクを着用させる。
- インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付処理を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるようにする。
- 当日の受付のほか、イベント前日の受付を行い混雑を極力避ける。
- 参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求める。
 - 氏名、年齢、住所、連絡先(電話番号)※個人情報の取扱いに十分注意する
 - 利用当日の体温
 - 利用前 2 週間における以下の事項の有無
 - 平熱を超える発熱(おおむね 37 度 5 分以上)
 - 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状
 - だるさ(倦怠(けんたい)感)、息苦しさ(呼吸困難)
 - 嗅覚や味覚の異常
 - 体が重く感じる、疲れやすい等
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
 - 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある

スポーツイベント開催時のセルフチェックリスト（主催者向け）②

スポーツイベント参加募集時の対応

□マスク等の準備

- 参加者がマスクを準備しているか確認する。
- 参加の受付、着替え、表彰式等の運動・スポーツを行っていない間については、マスクの着用を求める（運動・スポーツ中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとする）。

□スポーツイベント参加前後の留意事項

- イベント前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避ける。
- 会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮する。

イベント主催者が準備すべき事項の対応

□手洗い場所

- 手洗い場には石鹸(ポンプ型が望ましい)を用意する。
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- マラソンイベント等では、始点、休憩所、終点にできるだけ手洗い場を確保する。
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を必要に応じて用意する(参加者にマイタオルの持参を求めても良い。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする)。
- 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する。

□更衣室、休憩・待機スペース

- 広さにゆとりを持たせ、参加者同士の密を避ける(障がい者の介助を行う場合を除く)。
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。
- 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等)については、こまめに消毒する。
- 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮する。

スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする。

洗面所

トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗トイレのレバー等)については、こまめに消毒する。

トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。

手洗い場には石鹼(ポンプ型が望ましい)を用意する。

「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。

手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する(参加者にマイタオルの持参を求めても良い。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする)。

飲食物の提供時

参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うように声を掛ける。

スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する(ただし、ドーピング検査の対象となる者が参加するイベントでは、未開封の飲料を提供しなければならない)。

果物等の食品は、参加者が同じトング等で大皿から取り分ける方式を避け、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行う。

飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させる。

観客の管理

観客も入場させる場合には、観客同士が密にならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとる。

大声での声援を送らない。会話を控える。

会話をする場合にはマスクを着用する等の留意事項を周知する。

スポーツイベント会場

スポーツイベントを室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。

換気設備を適切に運転する。

定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う。

ゴミの廃棄

鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。

マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

スポーツイベント開催時のセルフチェックリスト（参加者向け）

参加者が遵守すべき事項

- 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（利用当日に書面で確認を行う）
 - 体調がよくない場合（例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある）
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクを持参する（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ 2m 以上）を確保する（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- イベント中に大きな声で会話、応援等をしない
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従う
- イベント終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する
- イベントの前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避ける

参加者が運動・スポーツを行う際の留意点

- 十分な距離の確保
 - 運動・スポーツの種類に関わらず、運動・スポーツをしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離(※)を空ける(介助者や誘導者の必要な場合を除く)。
 - 強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるため、一層距離を空ける。
 - 水泳時などでマスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする(※)感染予防の観点からは、少なくとも 2M の距離を空ける。

□位置取り:走る・歩くイベントにおいては、前の人の呼気の影響を避けるため、可能な限り前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取る

□運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わない

□タオルは共用しない

□飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにする

□同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしない

□飲みきれなかったスポーツドリンク等を、指定場所以外(例えば走路上)に捨てない